

## 平成30年度第2回 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	国際日本文化研究センター 総合情報発信室・特任助教	助成 金額	200,000 円
氏名	光平有希		
研究や活動等のテーマ（申請書に記入した内容を記入すること。）			
旧帝国大学史料にみる近代日本精神医療としての音楽療法			
助成金の使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）			
<p>明治後期～昭和戦前期は、他領域に先駆け精神医療の一環として音楽を用いる「音楽療法」が日本で体系的に実践され始めた時期に該当する。その時期の音楽療法実践で中心的役割を果たしたのは、東京帝国大学を始めとする日本国内の旧帝国大学附属精神病院、あるいは大学附属病院内の精神医学講座であった。当時の音楽療法実践内容は、病院年報や音楽療法実践記録書に記載され、奇跡的にも各大学の後身施設を中心に現存している。しかしながら、これまでそれらの史料が研究の対象になることはなく、それ故、近代日本精神医療における東西音楽療法の全体像が明らかにされることはなかった。</p> <p>本研究では、申請者がこれまで個別的に研究を行ってきた東京帝国大学附属精神病院（東京府巣鴨病院）に加え、京都帝国大学、東北帝国大学、九州帝国大学、北海道帝国大学、大阪帝国大学、名古屋帝国大学の音楽療法関連一次史料をも付加させ、網羅的に調査と比較分析することにより、日本の近代精神医療における音楽療法全体の独自性や共通する思想的背景を解明した。とりわけ、助成金は申請者の住居がある関西圏から特に遠い東北帝国大学、九州帝国大学、北海道帝国大学の史料を、各地の後身大学及び公立文書館にて調査・収集する際の旅費、及び資料複写代金として利用させていただいた。</p> <p>なお、助成金を使用した成果に関する発表については、学会及び市民講座など4箇所での発表に加え、2020年度には2本の論文の刊行も予定されている。</p>			
助成金の使用金額及び使途			
〔使途〕			
東北帝国大学、九州帝国大学、北海道帝国大学の史料を、各地の後身大学及び公立文書館にて調査・収集する際の旅費および資料複写代金として使用した。			
〔使用金額〕			
●旅費…197,000 円			
京都府長岡京市⇔宮城県仙台市（東北大学、及び宮城県公文書館での調査）3泊4日×1回 (22,500 円×2 [交通費] + 8,000 円×2 [宿泊費] = 61,000 円)			
京都府長岡京市⇔福岡県福岡市（九州大学）3泊4日×1回 (14,700 円×2 [交通費] + 8,000 円×2 [宿泊費] = 45,400 円)			
京都府長岡京市⇔北海道札幌市（北海道大学）3泊4日×1回 (33,300 円×2 [交通費] + 8,000 円×3 [宿泊費] = 90,600 円)			
●資料複写代金…3,000 円			
			合計：200,000 円
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）			
〔招待講演〕「日本における音楽療法の歴史的展開」、武庫川女子大学生活美学研究所 2019 年度秋季シンポジウム、甲子園会館、兵庫、2019 年			
〔口頭発表（個人）〕「近世・近代にみる日本音楽療法思想の諸相」、第 19 回日本音楽療法学会学術大会、大阪国際会議場、大阪、2019 年			
〔公開講座〕「近代日本の『医』と『音楽』」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究所 市民講座〈伝音セミナー〉、京都市立芸術大学、京都、2019 年			
〔招待講演〕「明治期音楽療法の諸相」、第 25 回日本音楽療法学会中国支部講習会、日本音楽療法学会、岡山シンフォニーホール、岡山、2018 年			